



学校だより 第6号

木城町立みどりの杜木城学園

# 10月 椎の苗木



令和6年10月15日(火)  
文責：教頭 黒木 義昭

## 感動のハーモニーをありがとう♪

～校内合唱コンクール(10/4)～

まだまだ暑さの続く夏休み明け、校内の至る所から爽やかな歌声が聞こえてくるようになりました。10月4日(金)の校内合唱コンクールに向け、5、6年はオープン参加として大勢の前で歌声を披露するために、7、8、9年の6学級は「金賞」を目指し、各学級が厳しい練習を積み重ねてきました。

音楽の授業はもとより、グリーンタイムや昼休み、朝の会や帰り会、休み時間などで、歌い、話し合い、競い合いました。思いが強い分、仲間同士でぶつかり合い、励まし合い、高め合いながら一日一日を大切に送ってきたようでした。

当日、先陣を切った7年1組の歌声の美しさに心を奪われました。続く2組、そして8年2組、1組と、優劣つけがたい演奏は、9年2組、



【金賞】 9年1組 ♪友～旅立ちの時～



【銀賞】 9年2組 ♪結一ゆいー

そして1組の登場で最高潮を迎えました。指揮者の振り上げた指先に集中し、息を合わせ、声を合わせ、心を合わせて懸命に歌う学園生たちの姿。歌声も、顔つきも、まともにも、このひと月あまりの

成長を感じさせるに十分な、見応え、聴き応えのある時間でした。

中心となって指導・準備してくださった白瀧先生(音楽専科)、そして各学級担任の先生方、学園生の皆さん、本当に感動をありがとうございました。



【銅賞】 8年1組 ♪ほらね、

## ホームページをご覧ください

～ 木城学園ホームページの紹介 ～

本校のホームページをご覧になったことはありますか。9月から、新コーナーとして「今日の給食」や「PTAの部屋」を設けました。「学校の様子」も、各学級や学年、学校の取組などをほぼ毎日更新中です。まだご覧になっていない方は、ぜひ、QRコードを読み取っていただき、アクセスしてみてください。



## 部活動生、頑張りました！

～西都児湯地区中学校秋季体育大会（9/27～10/7）～

3年生が一線を退き、各部・クラブが新体制で汗を流した夏。このひととき暑い夏に技を磨き、チーム力を高めた陸上部、軟式野球部、サッカー部、卓球部、女子ソフトテニス部、柔道、剣道、女子バレーボールの各クラブの生徒たち。それぞれ、この大会で精一杯頑張りました。この秋冬、来夏に向けてより一層励んでくれることでしょう。以下、紙面の都合で県大会出場のみを掲載いたします。

○ ソフトテニス女子	団体戦	準優勝	
	ダブルス	優勝	三嶋 はな・守部 凰花 / 9位 甲斐 彩愛・川野 聖奈
○ バレーボール	女子	準優勝	（都於郡中との合同チーム）
○ 卓球	2年男子シングルス	優勝	野別 虎珀 / 2年女子シングルス 3位 久保 希
○ 剣道	男子	7位	宮山 昂虎
○ 陸上	低学年80ハードル	1位	古谷 優衣（標準記録突破）
	1年800m	2位	古屋 陽愛（標準記録突破）
	共通走高跳	1位	文田 明里（標準記録突破）
	1年1500m	3位	江口 与佑
	4×100mリレー	3位	澁谷 菜々美・古屋 陽愛・文田 明里・古谷 優衣

※ 柔道は、地区大会は開催されなかったため、県大会から出場します。

## 求む！アルミ缶

～アルミ缶を回収ボックスへお持ちください～

6月から地域・保護者の皆様にもご協力いただいておりますアルミ缶の回収ですが、当初よりも収集量が若干少なくなっておりまいりました。学園生の教育活動を、資金面からスピード感をもって支える自助努力の取組になります。

保護者の皆様のお力添えが頼りです。ぜひ、継続的によりしくお願いいたします。



講堂南側



職員駐車場側

### 耕心コーナー

学校は、「好ましい人間関係」を育てる場

子どもは、はじめから上手な「人間関係づくり」ができるわけではありません。年齢や発達段階に応じた「人間関係づくり」の方法と態度を学ぶ必要があります。子どもはもちろん、教師、保護者は、学校は「人間関係づくりのための練習の場」であること、お互いが理解する必要があると思います。また、人間関係づくりには、「人に対して悪いことをしないようにする」ということだけではなく、「人間関係のトラブルにあったとき、自分で解決できるようにすることも必要です。人が集まれば、必ずトラブルはあり、私たち大人は、そのトラブルを早めに発見し、その程度によって適切に対応して、将来に向けて「人間関係づくりの基礎」を育てたいと考えているところです。

人を教え導き育てていくのは難しいことです。なかなか効果があらがなかったり、よかれと思って指導、助言したことが反発を買ったり、逆に相手のためにならなかったりもします。ただ、どんな場合でも忘れてはならないのが、常にその子どもに関心を寄せ、心からその成長を願うことだと思います。

本校は日本一の学校です。もちろん施設面は日本一新しい学校です。それだけではなく義務教育学校として、一年生から九年生までが、様々な異学年交流をし、これこそ「人間関係づくり」に最適な環境だと思っています。先日町外から来校された方が、「子ども達は、とても仲がいいですね。こんな素晴らしい学校が羨ましいです。」と言って帰られました。私は思わず「こんな学校に勤められて最高です」と言葉を返しました。

（校長）